

“あの時、私は・・・、”今だから話せる。
九州北部豪雨、被災住民の話より学ぶ！
～矢部川・星野川・沖端川の現場見学会～

武雄河川事務所
最近の話題

被災現場より何を学ぶのか？今後の事業にどう生かす？それは、あなた次第です！

近年の異常気象の影響で、日本の各地で、過去に例を見ない災害が発生しています。
あの、九州北部豪雨被害から、すでに2年が経ちました。
当事務所においては、所内研修の一環として、被害箇所の現場視察を実施しました。
9月26日（金）に実施した、矢部川被災箇所の見学会は、12名が参加。
現場では、復旧工法や復旧状況の確認、被災住民から当時の避難状況説明を受けました。

九州北部豪雨被災現場からの現況レポート



1 力所目

矢部川上流星野川柳原地区（八女市星野村）大規模斜面崩壊対策
筑後河川の安田地域防災調整官及び坂本建設監督官より、斜面崩壊
による河道閉塞に伴う、災害防止対策等の説明を受けました。

説明をされる安田調整官



説明をされる坂本監督官



被災を受け、2年を経て完成間近の現場にて



説明を受ける職員



φ3.5mの集水井工を覗く

現場は、法面対策の一部と
市道復旧を残す程度で、間も
なく完成予定です。
(それに伴い、私のポスト
も・・・?)



河道内は完成



残すは、市道復旧等

余談：被災当時、坂本さんは私と同じ「ダム統」に勤務。まもなく、筑後河川に併任となりそのまま異動へ。
一時、体重が減少されていた様でした。（今も疲労困憊！）被災地勤務で御苦労されていたのだと思う次第です。

2カ所目

矢部川下流六合地区（柳川市大和町）矢部川堤防決壊

筑後河川の濱邊矢部川出張所長より、堤防決壊箇所への復旧工法や激甚災害特別事業等の概要等について、説明を受けました。

説明をされる濱邊所長



説明を受ける職員



本復旧が完了した現場にて



矢部川本川は、概ね5年間で、堤防決壊箇所の上下流（約14.4km）において、堤防質的強化等の対策が行われています。今年も築堤工事を行います、土砂及び芝などの調達に、心配です。

決壊箇所の川裏



堤防決壊箇所は、既に本復旧が完了し、被災の面影が分かりませんでした。しかし、田畑だった川裏は資材置き場となっていて、被災の面影が残っていました。

3カ所目

矢部川・沖端川本郷地区（みやま市瀬高町）沖端川堤防決壊

当地区の被災住民（当事務所M専門職の親族）より、被災当時の状況説明を受けました。

説明をされる被災者



説明を受ける参加者



私が最後の救出者でした。最後まで乗らないと粘ったのですが、『避難ボートは、これが最後ハイ！』と、われ……。仕方なく乗船したとですよ！

川裏より被災箇所を望む（奥に大型土嚢が残る）



堤防決壊時の浸水位

建物の外壁には、浸水時の痕跡が残っていました。

みやま市では、今回の被災を教訓に「防災ハンドブック」が作成され、全市民（戸）に配布された。



みやま市HPより

http://www.city.miyama.lg.jp/info/pr/ev.asp?fol_id=7762

被災住民より語られた、被災当時の状況とは・・・、以下の内容となります。

赤字箇所について、おもに話をされました。

①堤防決壊前の状況	
・河川の状況は？（水位・濁流など）	→ 当日朝川の状況を見に行く。幸作橋下まで水位が、やばいと思った
・川裏の状況は？（漏水・法尻など）	→ 見に行っていないので分からない。
・降雨の状況は？（強さ・時間など）	→ バケツの水をりっくりかえたようだ
②堤防決壊後の状況	
沖端川113k400(左) (本郷地区) L=30m : 14日9:30頃に堤防決壊	
船小屋観測所 (14日9時 : 9.76m) 過去最高 : 7.74m	
・地区内水位は？（水位の上昇状況など）	→ 家前の道が川のようになった。いっきに押し寄せ、隣の家が浸水し
	→ 徐々に水位が上がり、家の中にも水が入ってきた。
③避難の状況	
・車は？	→ まず、車を家裏の公園駐車場に移動させた。
・近所は？	→ 家が浸水したので、我が家へ避難してきた。
・家財は？	→ 運べるものは2階へ、量などは、テーブルの上に、
・家族は？	→ 孫などは、ボートで救出され、矢部川対岸の小学校へ。
・本人は？	→ (最後の避難者) 一端、筑後市の体育館へ → 危険との情報で、福祉センターへ

④本川決壊後の状況	
矢部川7k200(右) L=50m : 14日13:20頃に堤防決壊	
・地区内水位の状況は？（水位の低下状況など）	→ 下流が決壊した後、一気に水が引いていったとの話を聞いた。
⑤避難解除後について	
・帰宅後の状況は？（水・泥など）	→ 床上浸水（約10cm）、泥は2cm程度堆積
・後片付け（手伝い・ボランティアなど）	→ 1週間程度、親類関係、大牟田高校（野球部）
・家屋の復旧作業（作業内容・期間など）	→ 床替え：大工に頼む、電化製品買換え
⑥沖端川（本郷地区）堤防決壊箇所の改修状況	
・堤防決壊箇所は？（護岸など）	→ 竹藪（ほこらが有り整備されていない。）
・上流部は？	→ 公園整備の時、整備された。
・下流部は？（橋梁箇所など）	→ 擁壁あり。橋の箇所が狭い。
・過去の出水時の情報など	→ S28災：幸作橋が流れた。家の裏の堤防が切れた。
	→ 川の水が多くなると、田や床下から水が吹き出していた。
⑦被災状況（本郷地区）	
・床上浸水：116棟（全市：147棟）約8割	
・地区の半数以上が水に浸かる	
⑧その他	
・被災を受けて思うこと。（意見・要望）	→ 被災割には、マスコミの注目が無かった。



九州北部豪雨被害の当時、私は病で約3週間の入院中（久留米市）でした。被災当日は退院日であり、朝から両親が退院祝いに駆け付ける予定でした。早朝から、かなりの降雨だったので、心配していたのですが、まさか、矢部川船小屋観測所で既往最大の水位を記録し、沖端川が決壊し実家（地区一帯）が浸水するとは、・・・。

退院翌日より、患部に配慮しつつ、実家の片付け作業の手伝いを行いました。時間をみて、地区内を見て回ったら、懐かしい場所すべてが浸水していました。壊れて残念に思う箇所も、水害の現実を垣間見た瞬間でした。



九州北部豪雨で地元が被災を受けているのに、復旧等において何ら貢献できていないとの思いがありました。

被災住民が経験談を伝えることで、見学会に参加された職員の、今後の河川行政の参考となるのであれば、私の実家が被災した事は、無駄では無かったと思う次第です。（M専門職、思いを語る・・・。）

編集後記：現地視察で思ったこと・・・ → 「百聞は一見にしかず」

今回の視察は、「災害等の発生した現場を視察し、復旧工法や復旧状況を確認し、今後の事業に反映させる。」事を目的に企画調整しました。

やはり、**テスクでいろいろ聞くよりも、実際現地を見て感じ学ぶことが大事だ**と思いました。今回の視察現場で、説明をして頂いた各現場の方々に感謝いたします。

引率責任者談